

2011年4月28日(木)
午後2時～午後4時(予定)
成瀬クリーンセンター 新館会議室

第5回 町田市下水道ビジョン策定懇談会

次 第

- 1 下水道ビジョン（パブリックコメント案）について
- 2 下水道アクションプラン素案について
- 3 その他

町田市下水道ビジョンの体系

は前回懇談会時(3/22)の内容から変更・修正があった箇所

基本理念	基本方針	施策目標	概ね30年後の姿	施策体系	施策の展開	参照頁	備考
次世代につながる良好な水環境を目指して	環境に配慮した施設整備を行い、 より良い環境 づくりを進めます	○住環境の改善 汚水管と合併浄化槽による整備を進め、快適な住環境に寄与します	生活排水が全て 適正に処理されている	① 市街化区域の汚水管整備の推進	・未整備箇所の汚水管整備の推進 ・未接続家屋への汚水管接続の指導	22 22	
		○河川の水質向上への貢献 汚水の適正処理を進め、 広域的な水環境の 保全に貢献します	安心して水辺で 水遊びができるような きれいな河川になっている	② 市街化調整区域の適正な汚水処理の推進	・汚水管と合併処理浄化槽を併用した汚水処理の推進	23	新規方針
				① 下水処理水の水質向上	・下水処理場の既存施設の準高度処理化 ・下水処理場に増設する施設の高度処理化 ・最新技術導入の検討	27 27	
				② 汚水管と合併浄化槽の普及による水質向上	・市街化区域の汚水管整備の推進 ・市街化調整区域の汚水処理施設整備の推進	22 23	
		○地球温暖化対策と 資源の循環利用 環境負荷の少ない 処理場運営を進め、 地球環境の保全と 循環型社会へ貢献します	資源の有効利用が図られ、 より環境に配慮した 処理場の運転ができています	③ 市民等利用者への働きかけ	・適正な下水道利用のPRの充実 ・工場、事業場への指導の実施 ・未接続家屋への汚水管接続の指導(再掲) ・合併処理浄化槽の適切な維持管理の指導強化	31 31	
				① 温室効果ガスの削減	・省エネルギー機器の導入 ・運転の効率化による電気や燃料の低減 ・建設現場でのCO2削減の取り組み	33 33	
	災害に強いまちづくりを進め、 安心な暮らし を築きます	○浸水対策の推進 総合的な取り組みにより、 浸水被害の軽減を図ります	50mm/hの激しい雨が降っても 浸水被害が発生しなくなっている	② エネルギー・資源の有効利用	・下水処理場でのエネルギー・資源の有効利用 ・建設発生残土などの建設副産物の有効利用 ・資源(処理水、汚泥等)のニーズの調査と有効利用の推進	33 35	
				① 雨水管整備の推進	・浸水履歴を考慮した雨水管整備の推進 ・流域市と連携した河川管理者への河川整備の要請 ・雨水管整備に合わせた親水施設の整備	39 44	
				② 雨水貯留・浸透施設の整備促進	・既存調整池の改造による機能拡充 ・他部局と連携した貯留・浸透施設の整備 ・民間による貯留・浸透施設の整備促進	41 41	
		○地震対策の推進 施設の耐震化と 危機管理体制の強化を進め、 地震による被害の 最小化を図ります	地震が発生した場合でも 速やかに下水道が 使用できるようになっている	③ 水害時対応体制の構築	・水害時対応マニュアルの策定による即応体制の構築 ・自助を啓発する広報や情報提供の充実 ・豪雨前のパトロールの実施	42 42	
				① 耐震化工事の実施	・処理場、ポンプ場の耐震化の推進 ・下水道管の重要箇所(軌道下等)の耐震化 ・長寿命化に合わせた下水道管の耐震化 ・防災拠点(避難所等)につながる下水道管の耐震化	47 47	
				② 危機管理体制の構築	・自家発電設備等の充実による水処理機能の確保 ・避難所へのマンホールトイレ整備の推進 ・災害時の対応体制等を定めた下水道BCPの策定	47 47 50	新規方針 新規方針
効率的で健全な経営を図り、 より良い下水道サービス に取り組みます	○効率的・効果的な 維持管理の推進 施設の延命化を図り、 持続的な機能確保を図ります	効率化を図りながら、 安定的に下水道が 使用できるようになっている	① 施設の定期点検の充実による延命化	・通常点検の充実と点検結果を活用した下水道管の維持管理 ・点検データの蓄積と分析による下水処理場の維持管理 ・耐震機能を付加した下水道管の延命化	53 53		
			② 更新に伴う処理場の効率化	・2ヶ所の処理場の機能集約による維持管理の効率化 ・最新技術の調査、検討による維持管理の効率化	55	新規方針	
	○持続可能な下水道財政の確立 下水道財政の健全化を図り、 安定的なサービスを提供します	事業の成果や 経営状態が理解され、 市民の満足が得られている	① 企業会計を活用した下水道経営基盤の強化	・事業の成果や企業会計を用いた経営状況の公表 ・経営指標の分析による使用料の定期的な検証の実施	59 59		
				・事業の選択と投資の集中 ・予防保全の管理による維持管理コストの平準化 ・職員の経営意識の向上			
			② 歳入増と歳出減に向けた取り組み	・下水道資産(土地)の有効活用 ・未接続家屋への汚水管接続の指導(再掲) ・施設整備や維持管理に要するコストの削減 ・大口委託の見直しなどの委託コストの削減	60 60 60	新規方針 新規方針	
			③ サービス向上に向けた取り組み	・技術の継承と職員の人材育成によるサービス向上 ・下水道事業のPRの充実	63 63		

下水道ビジョン案 修正箇所

- P. 21 の「住環境の改善」の「30年後の姿」
 - 前回 生活排水を含め全ての汚水が100%処理されている
 - 変更案 生活排水が全て適正に処理されている
- P. 22 の内容に、「未接続家屋への汚水管接続の指導」の内容を追加
- P. 23 の本文最終行
 - 前回 市が整備・維持管理を行う方式を検討
 - 変更案 市が整備・維持管理を行う方式も検討
- P. 25 の「河川の水質向上への貢献」の「30年後の姿」
 - 前回 安心して水辺で水遊びができるような河川になっている
 - 変更案 安心して水辺で水遊びができるようなきれいな河川になっている
- P. 31 の「水環境を良くする……できること」の内容を修正
- P. 32 の「地球温暖化対策と資源の循環利用」の「30年後の姿」
 - 前回 より環境に配慮した下水道になっている
 - 変更案 資源の有効利用が図られ、より環境に配慮した処理場の運転ができている
- P. 46 の「②危機管理体制の構築」に「自家発電設備等の充実」の項目を追加
- P. 47 の図 41 の後段に停電への備えや避難所でのトイレ問題の内容を追加
- P. 51 の「効率的・効果的な維持管理の推進」の「30年後の姿」
 - 前回 効率的で安定的な下水道サービスが提供されている
 - 変更案 効率化を図りながら、安定的に下水道が使用できるようになっている
- P. 55 の表 7 中ケース B の検討結果欄に、エネルギー利用のメリットを追加
- P. 56 の「持続可能な下水道財政の確立」の「30年後の姿」
 - 前回 市民に成果が見え、メリハリのある経営ができている
 - 変更案 事業の成果や経営状態が理解され、市民の満足が得られている
- P. 57 の「①企業会計を活用した下水道経営基盤の強化」に項目を2つ追加
- P. 59 の内容を、町田市が導入する「新公会計制度」をベースに修正
- P. 63 の「市民等利用者に向けた PR 活動や情報提供」に文章を追加